

いつも熊本日日新聞をご愛読いただきありがとうございます

今回の表面には、金婚式を迎えられたご夫婦を紹介します。今月13日に「熊日金婚夫婦表彰式」が各町村で開催されました。多良木町で27組、あさぎり町岡原地区で8組、湯前町で5組、水上村で11組でした。金婚、誠におめでとございます。

第60回熊日金婚夫婦表彰式

手と手を携え 半世紀

湯前町 小川 一義さん
ケイ子さん

湯前町の小川一義さん、ケイ子さん夫妻は「平穩無事な50年。幸せな毎日でした」と語られ、つらい事も前向きにとらえ「明るく振るまい乗り越えてきた」と一義さん。昭和41年に町役場に入庁。町の為に働いてこられ、退職後は町議として職務を3期務められました。ケイ子さんは町内の履物屋の店員として家計を支えてこられました。料理上手で評判のケイ子さん。母親の影響もあり「見よう見まねで覚えてきた」と話す手料理は抜群と御主人のお墨付き。現在も料理屋さんで働いておられます。食を通して今後も健康に気を配り、50歳の時に大病を患った御主人を「しっかりサポートしていきたい」と考えておられます。当面の目標は「10年後のダイヤモンド婚に2人と元気に出席すること」と「大好きなグラウンドゴルフや、7人のお孫さんの飛躍を楽しみに日々を送りたい」と話されていました。最後に一義さんから「良くついてきてくれてありがとう」とケイ子さんへ感謝の意を伝えられていました。



多良木町多良木 中山 泉さん
喜世子さん

泉さんは、当時多良木町久米にあった簿記学校を卒業後、兵庫県尼崎市に大工見習いとして就職されました。3年後には大阪府高槻市の工務店に移られ、65歳まで大工一筋で頑張ってきた。24歳のときに両親の勧めで、当時水上村在住の喜世子さんとお見合いされ、泉さんが喜世子さんに一目惚れされ結婚されました。それから泉さんは1年間で100万円貯めようと目標を立て6年間で600万円貯金されたところで一軒目のマイホームを建てられました。ところがまだローンが残っているときにスーパー建設のため立ち退きになり2軒目のマイホームを建築、泉さん夫婦はラッキーだったと喜んでおられました。40歳で中山泉工務店を設立され3人の従業員を雇いながら、営業から見積、現場と忙しかったそうです。そんな泉さんを喜世子さんはユアサ電工に勤めながら、朝は5時に起きて30年間支えて来られました。しかし晩年は出身地である多良木で暮らそうと3軒目の家を見て、ビーグル犬のジミーちゃんと一緒に幸せに暮らされています。



あさぎり町岡原 高岡 實さん
博子さん

あさぎり町岡原にお住まいの、高岡實さん(77)、博子さん(70)夫妻は、50年の歩みを「我慢の連続だったが、あつという間だった」と振り返られました。實さんは高校を卒業後、海上自衛隊に入隊。広島県呉市の海上自衛隊を経て、岩国市の米海軍基地で航空機の整備を担当されてきました。当時は、アメリカとの国力の差を痛感し、激動の時代を過ごされたそうです。父親の病気を機に帰郷され、後に博子さんと御結婚。永きにわたり会社員として家族を支え、3人の子宝にも恵まれ、現在ではお孫さんの成長を見るのが楽しみひとつとか。



實さんは、地域の為になりたいと取り組まれ、区長や老人会会長なども歴任。お寺の総代としても45年、今も現役で続けられているそうです。そんなご主人をいつも笑顔で支える博子さん。「辛くて我慢が多かったこれまでだったが、家族の為に頑張ってきたのも主人の協力のおかげ」と話し、「夫婦共に大きな病気も無く、これからは明るく健康に生きていきたい」と素直な笑顔で話されていました。普段は、「照れくさくて言いきらん(笑)」と實さんも、「心の中ではとても感謝している。これからは辛抱強くのんびり生きていきましょう」と優しい笑顔で奥様に頭を下げられていました。

水上村岩野 中村 正邦さん
つよ子さん

「もう50年になるのかな～」と仰られる中村さん夫婦。正邦さんは現・熊本県信用組合に約40年間お勤めになられました。湯前、免田、大津支店など各地に赴任。免田支店在任中に支店長に着任。熊本市にある本部では、監査役を務められるなど、活躍されてこられました。支店で集金業務をされている時に、看護婦をされていたつよ子さんと知り合われたのち結婚し、1男1女に恵まれました。



これまでを振り返ると、引越しが多く大変だったそうです。正邦さんは慣れない土地で、新たに人間関係を築いていかなければならなかったことや、つよ子さんは計7回の引越しで、空けずに閉まったままの段ボール箱があったことなど、様々なエピソードをお話して頂きました。そんなお忙しかった時代が過ぎ、定年を迎えられた後には、お2人で全国各地を旅して回られたのが、楽しい思い出です。来月には結婚記念日が控えており、弟・妹ご夫婦と、金婚式を兼ねたお祝いを予定されているそうです。毎日温泉に入るのが健康の秘訣だそうで「2人共に、健康で元気に、長生きできればいいね」と、お互いが互いを思いやりながら話されているのが、とても印象的なご夫婦でした。

スポーツ愛・I・アイ

スポーツ現場最前線 転換期の今 何を考える



昨今のスポーツ現場における取り巻く環境が大きく変わり始めている。体罰・パワハラ・暴力(言葉を含み)等、連日何かしらメディアで耳にする。その中でよく聞く「選手ファースト(アスリートファースト)」に注目してみたい。選手としての一番に考えて取り組む。大変さばかりに考え過ぎる。選手としての思いも、選手指導者の間にはないだろうか?選手と指導者の間に信頼関係が築けてこそ競技技術が向上する。その信頼関係の中には、当然厳しさ等も含まれると考える。そこが行き過ぎると判断されれば、第3者の目が反応する。このパワーバランスの乱れが、現代のスポーツ環境を大きく変えようとしていると強く感じる。学生スポーツの指導現場でも、こういったトラブルが多い事も事実だ。決して体罰やパワハラを肯定するつもりはないが、危険と隣り合わせにあるスポーツには「気の抜けた行動を取らせる訳にはいかない」と指導者は必要になってくる。昔と今の指導を比べるのは良くないかもしれないが、昔は厳しさが当たり前にあり、輪を乱す事を悪しとされ我慢を覚えさせられた。話は少し変わるが、大地震後の被災者の方達が給水や給配食の際、きちんと行列を守り、略奪行為などがない様子を世界のメディアが称賛したとの報道を目にした。これこそが日本人の良さ、先人たちが教えてきた、我慢強さではないだろうか。我慢の背景には厳しさや辛さがある。それら乗り越える力が、我慢強さとなる教訓のひとつと考えられているのではないだろうか。スポーツも色んな意味で転換期にきている今、組織のガバナンスを含め、我々第3者も本場の「選手ファースト」に向けて考えていかなければいけない。スポーツ記事を書く身としても辛い話題が多いスポーツ界、高校野球問題に然り、体操問題に然り、今後より良い方向に進展する事を切に願いたい。



